第７回　第４次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会概要

≪会議概略≫
日時　　令和４年９月５日（月）９時３０分～１１時２５分
場所　　清瀬市児童センター　ころぽっくるホール
　　オンライン
出席　　赤川都　石崎勇仁　岩崎雅美　小滝一幸　後藤清　齋藤靖之　土屋テル子
　　長嶋潤　林清　菱沼幹男　増田恵美子　麦倉稔　山村康一　土倉大樹
欠席　　髙橋紘之
傍聴　　２名
事務局　山下晃　新井勘資　星野孝彦　奥山裕司　関口美智子　富田千秋　小林浩子
　　浅見真帆子
　　実習生２名

１．開会
　　社会福祉協議会事務局長より

２．あいさつ
　　社会福祉協議会会長より

３．第６回策定委員会議事録について
★　資料１に基づき、事務局より説明
　確定とし、委員名は伏せ、ホームページにて公開する。

４．計画素案について
（１）計画の基本理念及び修正・変更案について
★　資料２，資料３に基づき、事務局より説明
★　基本理念案②について、林委員より説明
　・福祉は本質的に、福祉を考えていない人への協力を求めているのではないか、清瀬市民への働きかけではないかと考えた。また、福祉のまちづくり懇談会で見えてきたことは、人とのかかわりを持ちたいということに集約されるのではないか。
　・福祉に関わる人と関わっていない人が遊離しているのではないかと考え、接点を持っていくイメージを考えた。
委員長　　本日が最後の委員会となる。まずは基本理念以外についてご意見はいかがか。

≪異議なし≫

委員長　次に基本理念について話し合っていきたい。地域活動につながっていない人がいかに福祉と接点を作っていくかについて話すとき、意識啓発や福祉教育が大事なのではないかと考えがちになる。そうするとやっていない人が負い目を感じてしまう。一方で地域活動に参加していない人たちも実はいろいろとつながりや関心をもってくれていたりする。案②では、自分の思いでやってきたことが福祉にもつながっているという考え方を示された。基本理念は、この計画を進める中で悩んだ時に立ち戻る視点や考え方として整理できるとよい。案②と③を結び付けるという考えもあるかもしれないが、委員の皆さんの意見を伺いたい。

委員　どれもよいと思うが、案②と③が一緒にならないかと思いながら聞いていた。「他人のためにが自分のため、思いが循環する地域社会へ」というところもよいし、「やさしい清瀬」も入れられるとよいと思った。

委員　案②と③が良いと思った、案②はハードルが高くなく、すっと入ってくるように感じる。また「やさしい清瀬」もよいワードだと思う。「思いが循環するやさしい清瀬へ」というのはいかがか。

委員　「やさしい清瀬」というのが目を引いた。やさしいというのは実践するのが困難だが、ここに立ち返ることができるとよいと思う。認知症の身内がいて、時にイラっとするときもあるが、やさしいというところに立ち返れるとよいなと思う。二宮金次郎が好きで、敵対する人も含めてまちづくり、むらづくりをしていこうという「一円観」という考え方があり、排除するのではなく、取り込んでいこうとする考え。巡り巡っていくイメージが想起される「循環する」という言葉が合わさるとよいと思う。

委員長　芋こじは芋を桶の中でかき回して芋同士がぶつかり合ってきれいにすることをいうが、二宮尊徳は、互いに理解し合う「芋こじ」によって村づくりをした。大事にしたい考えでもある。

委員　どの案も大事なキーワードが入っている。基本理念として３案を合わせて「みんなでつくろう地域の輪」「思いが循環する」「やさしい清瀬」とつないでいってはどうか。皆さんの想いが伝わってくる。

委員　ふれんどサービスの説明について確認したい点がある。ふれんどサービスは社協会員以外は除外しているが、公的サービスから漏れている人も支援できるよう社協会員以外も対象としてほしい。やさしい清瀬というのは具体的に何を担っていくのか、というのが盛り込めるとよい。

この活動計画は公的サービスで対応できないところを地域福祉コーディネーターが地域住民とともに課題解決の取り組みを進めていくというところが主眼だろう。地域共生社会を目指していくというところなのだろうが、基本理念は短文でコンセプトを絞ったほうがよい。案①が良いと考える。

委員長　ふれんどサービスに関して、事務局から説明いただきたい。

事務局　もともとは、助けられる側の人もあるときは助ける側に、という考えで住民相互の在宅支援サービスとしてスタートしたが、現状は助ける側の相談は少ない。また、社協会員ではない方の相談は９割程度。社協の理念等を説明して、理解いただき、社協会員となって、ふれんどサービスを利用いただいている。入口の課題については、継続検討が必要と考えている。

委員　体調を崩して声を出すのも困難な状態にあり、助けてもらう立場になってわかるようになったが、案②の「自分のために」というのが良いと思った。

委員　案③の「思いと力がつながり合うやさしい清瀬」というのが良い。循環型地域社会というのはこれから求められるところであり、「思いが循環する地域社会」という言葉も残してもらえるとよい。

委員　自分のためが人のためになって、人のためのことが自分のためになるというのが基本的なところだろう。案②を中心にしてはどうか。

委員　基本理念はシンプルが良い。案①が一番シンプルのように感じる。「みんなでつくろう地域の輪～思いが循環するやさしい清瀬～」というのはいかがか。

委員　自分のために始まって自分のため、となると、忘己利他という宗教的な意味合いとしてとらえる人もいるのではないか。稲盛和夫さんが進めていた考えではあるが、企業であればよいのだろうが、受け止められ方は心配がある。

委員　どの案も非常に高尚な理念であると感じている。地域福祉計画と併せて社協と連携して進めていけるとよい。

副委員長　輪のイメージはとても良い。清瀬という地名が入るのもよいと思う。思いを詰め込んでいくと長くなりがちだが、シンプルにできるとよい。内容は案③が良いとも思うが、「思いが循環するやさしい清瀬」と言い切ってはどうか。

委員長　どれに決まったとしても、いろいろ話し合って決めた経緯を市民に話せるというところが大事。

会長　専門家は計画の中身をみていくのだろうが、一般市民はこの計画が何をやってくれるのかというのを基本理念に求めるのではないだろうか。いろんな方々の想いを集約した形で決まるとよいと思うが、「みんなでつくろう地域の輪」ということを具体的に説明するものとして、案②と案③をつけていくのが良いのではないだろうか。

委員長　「思いが循環するやさしい清瀬～自分のために　が　ひとのために～」というのはいかがか。

委員　福祉を自分事として考えていない人が多く、「みんな」というと自分ではないと考えがちなのではないだろうか。自分事にするような社会に、との思いで考えた案が②になる。

委員長　「みんな」というときに自分が入っているかどうか、または取りこぼされる人たちも含めて「みんな」と言っているかどうか、とても深いところの意見をいただいた。

事務局　これまでの委員会記録や懇談会、アンケートなどの声を振り返ってみたが、

取りこぼさない、小さな声を拾ってつなげていく、やさしさ、つながり直すことが大事にしたいことと感じた。

委員長　「思いが循環するやさしい清瀬～自分のために　が　ひとのために～」としたいがいかがか。

≪異議なし≫

委員長　あいさつ文の中では決定に至る議論にも触れていきたい。

（２）概要版について

★　資料４に基づき、事務局より説明

委員長　概要版の発行数はどのくらいか。

事務局　１５００部発行予定としている。

委員　社協だよりにも計画概要について掲載するのか。

事務局　掲載準備を進めている。

委員長　社協だよりは全戸配布されるものか。

委員　社協だよりは新聞折り込みで配布している。

委員　概要版の内容はわかりやすい。ユニバーサルデザインのフォントにするとより見やすくなるのではないか。

委員長　大学でもユニバーサルデザインのフォントに切り替えている。検討してもらえるとよい。

ひらがなに振ってあるふりがなは整理してもらえるとよい。社協の説明部分は、地域全体をよくする取り組みづくりに関わる団体というところが回りくどいため、もう少しわかりやすくしてもらえるとよい。また「取り組み」と「取組み」と表記が混在しているので統一してもらえるとよい。

委員　イラストに統一感があるとよい。

委員長　社協イメージキャラクターのきよちゃんがもう少し目立ってもよいのではないか。

委員　外国人の方も理解しやすいように、和暦ではなく西暦でもよいのではないか。NPO のふりがなは「えぬぴーおー」とするのかどうか。イラストのタッチや枠の大きさの統一があるとよい。また、表紙の赤い丸が気になったこと、きよちゃんの隣の枠は、頭の中でメモを書くイメージでよいのかという点も確認したい。

委員　和暦と西暦を併記してもよいのではないか。

事務局　イラストは統一感が出るように業者とも相談したい。年号は和暦と西暦を併記としたい。表紙の赤い丸はあたたかい気持ちを、青い円でつながりを表現した。

委員長　表現は工夫しながらまとめてもらえるとよい。

概要版が完成した段階で、メールで送付して確認していただけるとよい。

最後の委員会なので、皆様より一言ずついただきたい。

委員　　最初、参加した時は不安もあったが、発言できることがあってよかったと思う。これまで福祉とは遠い側にいたが、後々は福祉を享受する側になるだろう。もとになるところに関わることができて良かったと感じている。

委員　　３月に病気が再発して、通院をしているのでこれまで参加できなかった。最後の会議と聞いて本日参加した。

委員　　全ての地域懇談会に出たが、誰もがみんな世代間交流を望み、顔見知りの関係になりたいと思っていると感じた。顔の見える関係づくりを丁寧にしていくことで人がつながっていく。これまで世代間交流という大きな視点から見てこなかったが、社会で子どもを育てていくという方向にシフトした時、私たちが地域に出てきちんとつながっていかないと子どもを守りきることができないんだと感じた。多くの先輩たちが持ちうる生活力を伝え、３０代４０代が先輩たちから知恵を学び取ることで、世の中は変わっていくと思う。清瀬での関係づくり、仕組みづくりをしっかりと取り組んでいただき、私たちも多くの協力を惜しまないという想いでいる。

委員　　一般の立場で意見を出させてもらった。ありがとうございました。

委員　　視覚障害者の立場で参加していた。ニーズ調査や地域懇談会の話を聞いていると、障害者だからとか一般の人だからという違いはあまりないのだと気づいた。いろんな立場の人の生活がよりよくなるような計画内容となったと思う。

委員　　民生委員になってすぐにコロナ禍となった。活動ができない中で、この委員会に関わるようになり、いろいろな学びを得た。概要版できよちゃんに問いかけられているように、何ができるか考えていきたい。

委員　　施設でクラスターが発生して、すべての会に参加ができなかったことは残念に思う。オタスケ君という取り組みの中で、単身高齢者宅にごみ出しのお手伝いに行ったところ、転倒して怪我していたのを発見して医療につなげることができた。施設として、清瀬のつながりの中で何ができるか、これからも模索続けたい。

委員　　社協理事の立場で計画づくりに参画した。野塩の地域懇談会に参加したが、ご意見を発してくださっていてありがたいと感じた。いかに多くの方に参加いただきながら地域づくりを進めていくか、一市民としても頑張っていきたい。

委員　　最初は場違いな思いでいたが、終わってようやくほっとしている。施設の立場を超えて視野が広がる機会となった。施設としても関われることを考えていきたい。事務局もとりまとめありがとうございました。

委員　　市民公募で応募した時のことを思い出した。回を重ねるごとに意見できるようになり、知見が広がったように感じる。地域づくりの会や避難所運営協議会にも関わっているので、そういった場をもっと活用できればと感じている。また、この場限りではなく、今後も皆さんとつながっていきたいと思う。

委員　　今後、市としても、社協と連携して地域福祉を推進していきたい。

委員　　清瀬は、市と社協の関係が密接だと感じている。地域懇談会の進め方を見て

いても、住民の方の声をうまく拾っていると感じた。一方でアンケートや懇談会にも参加できていない人も多くいる。その方々のことも想像力を膨らませながら、推進していくことが大事だろう。

委員長　本日欠席の委員からも一言いただいているので、紹介させていただきたい。地域共生社会に向けたまちづくりという視点も含め、行政の地域福祉計画との連動も視野に入れ、進捗管理しながら実践することが次のステップになるだろう。地域福祉コーディネーターについて、モデル的に１名配置からでもよいので、広がっていくことを願っている。

事務局からも一言ずついただきたい。

事務局　・多くの学びの場となった。今後の活動にもつなげていきたい。

・生活支援コーディネーターにも関わることが多くあった。業務にも活かしたい。

・委員の皆さんとの縁から計画づくりが始まった。多くの人の想いに触れ、学びえることが多かった。

・行政の立場で地域福祉計画策定に関わったことがあるが、地域福祉活動計画は市民の方に近づいた計画だと感じた。積極的なご意見をいただいていることに感動している。力を注ぎ潤滑油となって今後も加わっていただきたい。

・障害者に関わる分野で考えるときが多いが、地域福祉という広い視野で考えるきっかけとなった。

・長期間にわたり、委員会に関わってくださりありがとうございました。資料の読み込みや地域懇談会へのご参加など、ご負担かけた部分もあったかと思う。懇親会やグループワークのような場を設けることができず、敷居が高い中での委員会となったのではないかと思う。計画は社協が頑張ることを項目化したものでもあるが、社協の独りよがりになりすぎず、いろいろな考え方を聞きながら、計画推進していきたい。

・行政の障害福祉の部署にいたが、障害福祉計画は数値目標とその達成のための計画だった。社協の計画は数値目標ではとらえきれない難しい面もあるとも感じた。皆様にご協力いただきながら、進めていきたい。

・人のためになる活動をされている方々がこの場に集まっており、このような人たちが地域にいることが心強い。今は自分のことはできるが、突然人の力を借りる必要が出てくることもある。社協が地域に入り込めていない部分もまだ多い。民生委員のような地域の人の力も借りながら、輪を広げていければと思う。せっかく集まったチームであり、輪を広げていきながら、より良い清瀬としていただきたい。

菱沼先生という人材がいることも大きく、これからも長く関わっていただきたい。ありがとうございました。

副委員長　自分は偏りが多く、目の前の子どもやはざまにある方、拒否のある方とも肌が触れるところで動いている。この委員会ではいろいろなお立場の方の意

見を聞くことで目が開かれることが多かった。野塩は東村山も接する地域で、周りの市とも連携が必要だといつも考えている。すべての市にある社協がその軸になってもらえるとよい。計画は作った後が大事で、私にできることを探してやっていきたい。

委員長　　委員長は地域住民の方が良いと考えており、他の地域では委員長を受けないようにしているが、大学も清瀬であり、週のほとんどを清瀬で生活していることから、委員長を引き受けた。今回の委員の皆さんは、日々地域に尽力いただいている方々で、このご縁がありがたいものだった。また計画内容をみると、社協にとって大事な転換となる計画でもある。都内でも半数以上に地域福祉コーディネータ配置が進んできているが、大事だからこそ広がっているところでもあるので、ぜひ次のステージに向かって取り組んでいただきたい。今まで漏れていた方々もつながっていきながら、社会福祉法人とも連携しながら、更なるステージに進んでいけるとよい。ありがとうございました。

５．その他

★事務局より資料５に基づき、事務連絡を行う

・計画冊子に掲載する委員からの一言欄の原稿作成をお願いしたい。９月２２日までに事務局まで送付いただきたい。
・フォーラム内容が決まれば、メールにてお知らせする。
・委員報酬については、前回同様１か月以内の振込とし、通知はしないので確認をお願いしたい。
・会議概要は後日メールする。

６．閉会

社会福祉協議会事務局長より